

<第54回調査>

2013年11月25日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2013年11月13日(水)13:00~2013年11月20日(水)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』また『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は1756件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

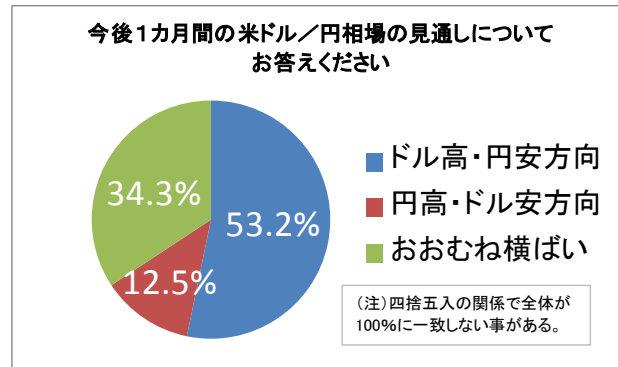
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第54回調査結果略報：全般的に「横ばい」予想が増える】

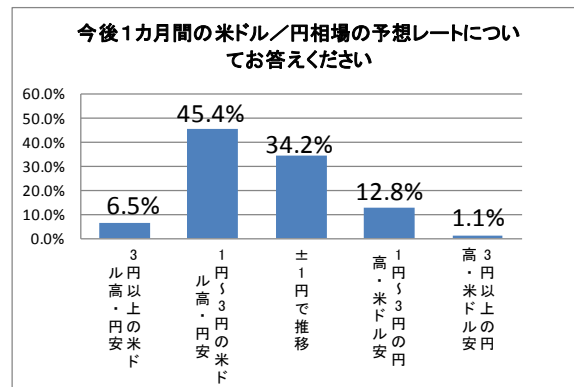
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が53.2%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は12.5%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+40.7%ポイントとなり、前回の+34.2%ポイントから大幅にプラス幅が拡大しており、FX投資家が強気姿勢を継続している様子が示された。ただし、「米ドル高・円安方向」で見ている人の割合は低下(前回：54.8%)しており、このDIの上昇は「円高・米ドル安方向」と答えた人の割合が低下(前回：20.6%)したことによるものであったと見られる。調査期間中の米ドル/円相場は、99.10円前後から15日にかけて100円台前半まで上昇したものの、その後は上値の重さが目立つ流れとなった。これにより、強気予想・弱気予想ともに、「横ばい」との予想にシフトしたと考えられる。※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が45.4%と最も多く、「±1円で推移」が34.2%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は12.8%、「3円以上の米ドル高・円安」は6.5%、「3円以上の円高・米ドル安」は1.1%という結果になった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安寄りに傾いており、問1の結果と整合的と言える。特徴としては、引き続き、穏やかな上昇を見込む向きが多いという点だ。ただし、前月に比べると、「米ドル高・円安」および「円高・米ドル安」のどちらの方向を取っても回答割合が低下している。唯一回答割合が伸びたのが「±1円で推移」で、小動きの可能性を見るFX投資家層が増えていることが分かる。調査期間中のドル/円相場が概ね100.00円前後で推移していた事から、FX投資家の米ドル/円の予想コアレンジはおおよそ99円～103円と考えられる。

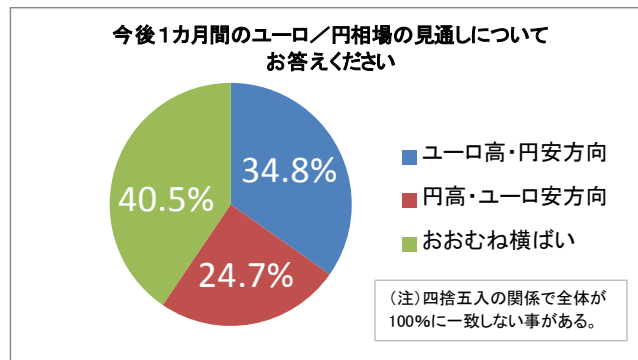


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

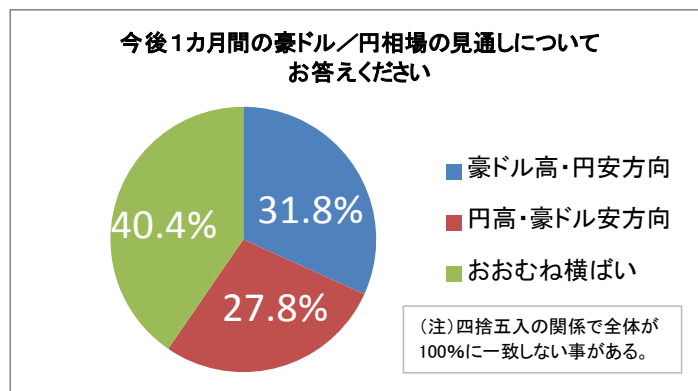
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が34.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が24.7%となった。この結果「ユーロ円予想DIは+10.1%ポイント」となり、前月(+22.4%ポイント)からプラス幅が縮小した。調査期間中のユーロ/円相場は、133円台前半から順調に上値を伸ばし、30日の東京市場では、約4年ぶりの高値となる135円台後半まで上昇した。しかし、「ユーロ高・円安方向」を見込む層が減少(前月: 40.8%)し、「円高・ユーロ安方向」を見込んでいる割合が増加(前月: 18.4%)するなど、強気な見方は弱まっている。欧州中銀(ECB)が月初に利下げを行ったことで、長い目で見ればユーロ/円は売り、と考える層が増えた可能性がある。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が31.8%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は27.8%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+4.0%ポイントと、前月(+36.0%ポイント)からプラス幅を大幅に縮小した。調査期間中の豪ドル/円相場は、92円台前半から94円台半ばまで上値を伸ばすなど堅調に推移した。しかし、FX投資家層の見方は「おおむね横ばい(前月: 29.8%)」や「円高・豪ドル安方向(前月: 17.1%)」に大きくシフトしている。豪ドル高が進行したとはいえ、豪中銀(RBA)が豪ドル高牽制の姿勢を強く示し、豪ドル高修正のための利下げ観測まで浮上する中で、FX投資家層においても目先については豪ドルの反落の可能性を意識している可能性がありそうだ。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

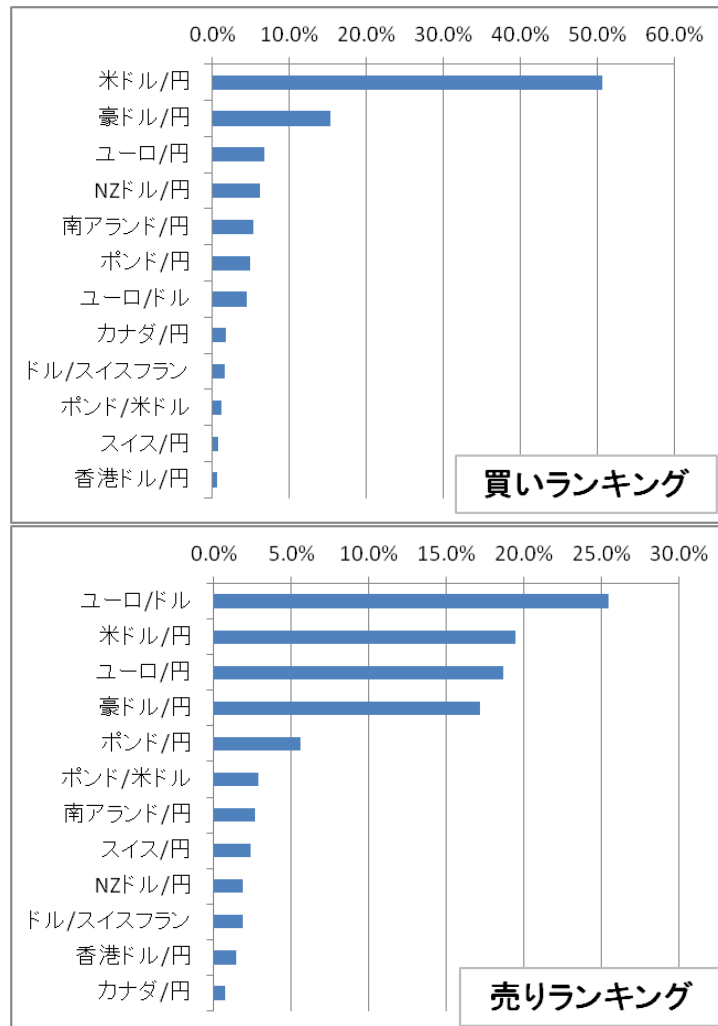


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

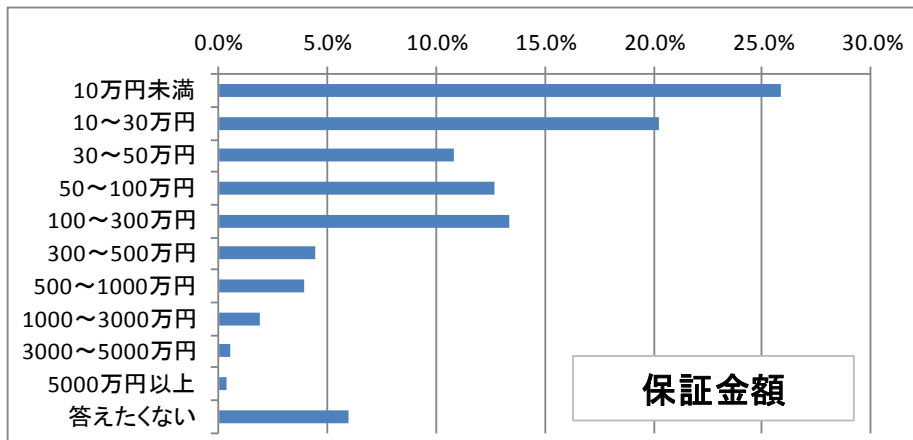
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(50.7%)、2位豪ドル/円(15.3%)、3位ユーロ/円(6.7%)、4位NZドル/円(6.3%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/ドル(25.5%)、2位米ドル/円(19.4%)、3位ユーロ/円(18.6%)、4位豪ドル/円(17.1%)、となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が後続に大差を付けてトップの座をキープ(14カ月連続)している。ただ、2位の豪ドル/円を買い注目していると答えた回答割合が大きく低下(前回:21.5%)した。豪ドル人気は続いてはいるものの、問4の結果から窺えるように、先安感を持っているFX投資家は比較的多いと考えられる。一方の「売り」で注目通貨ペアについては、5カ月連続トップだった「米ドル/円」に代わり、「ユーロ/ドル」がトップに躍り出た。ただ、回答割合については、これまでに比べて分散する傾向が見受けられている。特にユーロや豪ドルの反落を予想するFX投資家層が多いようで、やはり問3や問4の回答と整合性が取れている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

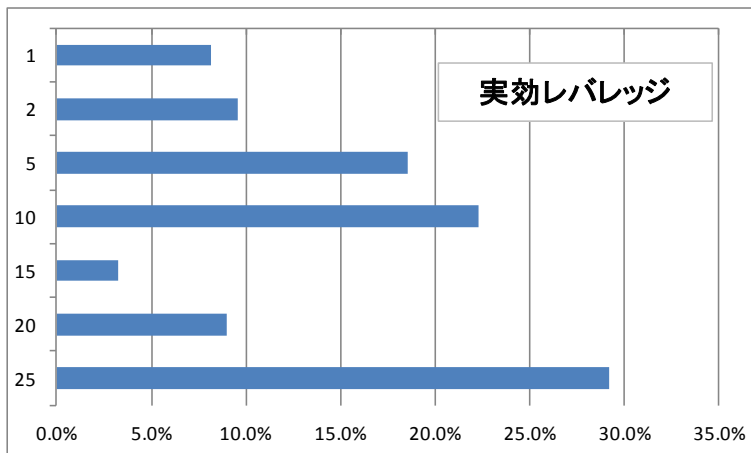
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が25.9%と最も多く、以下「10～30万円(20.2%)」、「100～300万円(13.3%)」、「50～100万円(12.7%)」、「30～50万円(10.8%)」と続いた。前回、調査開始以来初めて「100～300万円」が最高回答割合を集めたが、今回調査では「10万円未満」が1番手に復帰した。また、「500万円以上」と答えた合算割合は前回の14.5%から6.6%に低下している。調査期間中は全般的に円安が進行しており、円売りから入るFX投資家層にとっては取引が開始しやすい状態だったと言える。とはいえ、ユーロ/円や豪ドル/円などについては先安を見込む層も多く、これが、あくまで「少額で気軽な投資」に繋がった可能性がある。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「25倍」と答えた割合が29.2%と最も多く、「10倍」が22.3%、「5倍」が18.5%と続き、以下、「2倍」が9.5%、「20倍」が9.0%と続いた。最大レバレッジである25倍を主に活用する向きが引き続き最も多い。次に多いのが「10倍」という点を見ると、リスクをある程度絞ってFX取引を行おうとする層は「10倍」という計算しやすいレバレッジを好む傾向があるのかもしれない。

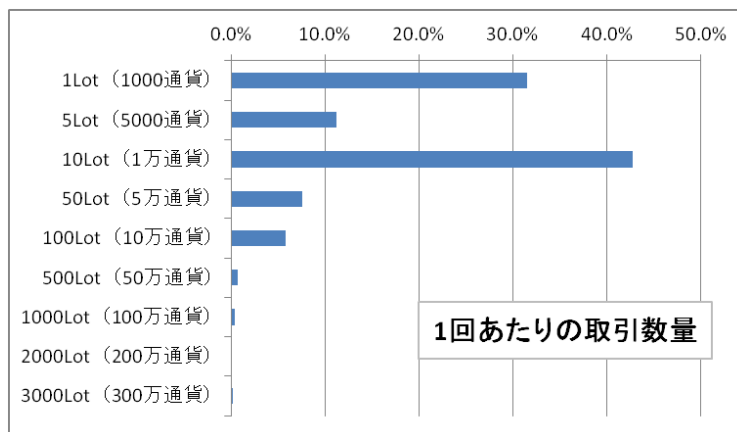


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

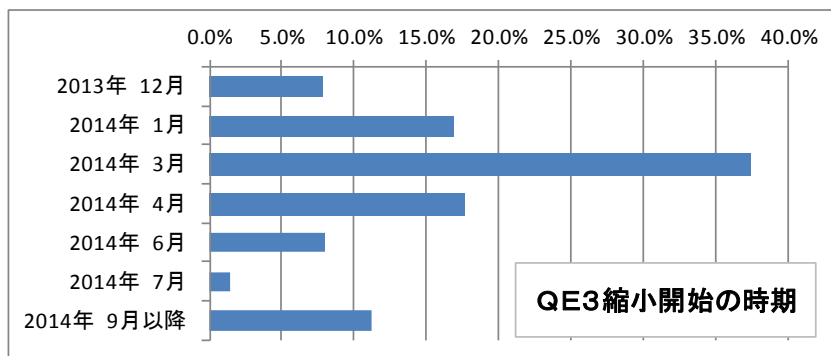
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が42.8%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が31.5%、「5Lot (5000通貨)」が11.2%、「50Lot (5万通貨)」が7.6%、「100Lot (10万通貨)」が5.8%と続いた。10Lotや1Lotが合わせて7割超を占めており、キリの良い数値が好まれる様子が見受けられる。次点に「1Lot (1000通貨)」がきた理由としても、FX会社の中には少額取引を推進するために1000通貨単位から取引可能にしている企業もあり、最低限の金額からFX取引を行ってみようとする層が一定程度いることが背景にあると見る。本質問は今回から新たに調査対象として増やしたものであり、今後の推移が注目される。



問9: 米連邦準備制度理事会 (FRB) による、量的金融緩和第3弾 (QE3) 縮小開始の時期は？ (ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「米連邦準備制度理事会 (FRB) による、量的金融緩和第3弾 (QE3) 縮小開始の時期は？ (ひとつだけ)」と尋ねたところ、「2014年3月」が37.2%と最も多く、「2014年4月 (17.5%)」と「2014年1月 (16.8%)」が僅差で続いた。2013年前半の段階では2013年中のQE縮小開始が見込まれていたが、足元では8割近くのFX投資家層が2014年前半に見通しを後退させている結果となった。また、「2014年9月以降」の回答割合は11.2%に上っており、市場のムードと比較してもかなり慎重な見方を示すFX投資家層も無視できない割合で存在している。FX投資家全体が米経済の強さがQE縮小開始に耐え得るほど回復するにはまだ時間がかかると考えている様子が窺える。

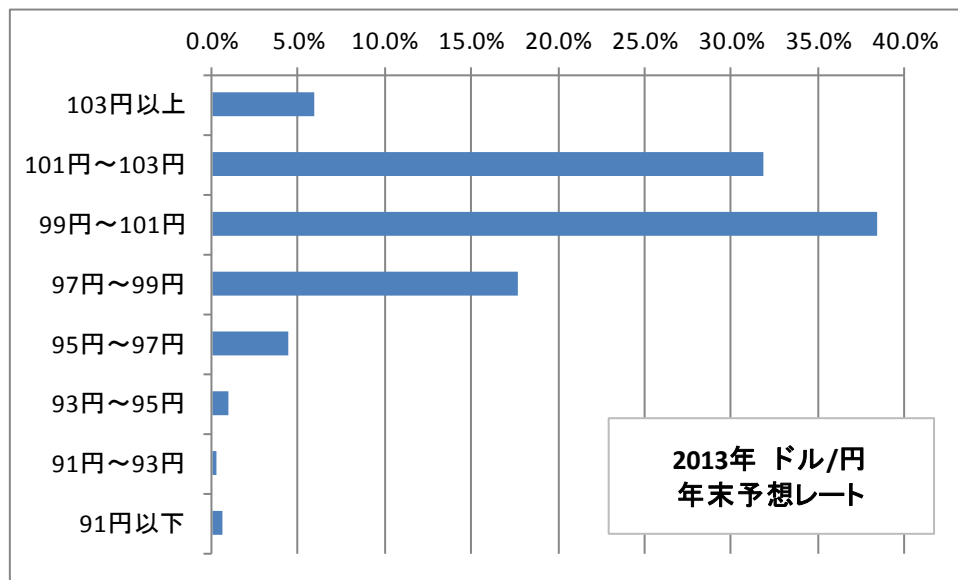


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問10: 2013年12月31日ニューヨーククローズ時点のドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)

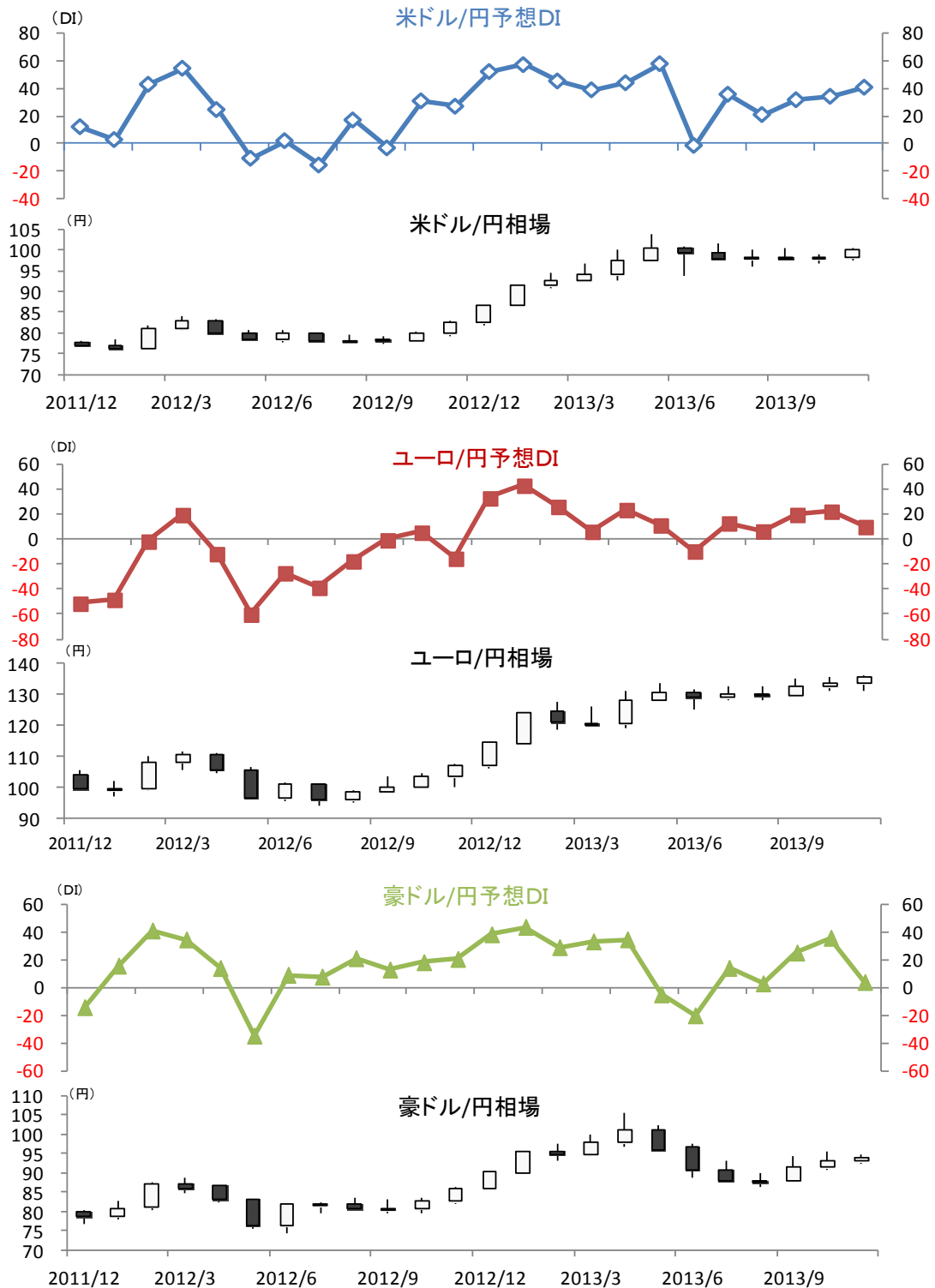
今月の特別質問項目として「2013年12月31日ニューヨーククローズ時点のドル/円の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「99円～101円」と答えた割合が38.4%と最も多く、「101円～103円(31.8%)」、「97円～99円(17.7%)」、「103円以上(5.9%)」と続いた。調査期間中のドル/円相場は100.000円を挟んでの往来であり、この水準のまま2013年を終えると考えたFX投資家層が最も多かったことが明らかとなった。ただ、「101円～103円」とみるFX投資家層も多く、どちらかと言えば「米ドル高・円安方向」を見ているFX投資家の方が、「円高・米ドル安方向」を見ている層よりも多いことが分かり、問1との回答の整合性は取れていると言えるだろう。ただし、「103円以上」を見ている投資家層の少なさから、今後1カ月半程度の期間で4月につけた年初来高値(103.733円)を更新するほどの米ドル高・円安が進むと見る向きはかなり少数派だと見られる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第54回目となりました。調査開始から4年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2011年	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com